

令和6（2024）年度学修成果の達成状況等調査結果

I. 調査時期、対象者数

1. 調査時期：令和7年1月下旬～2月上旬

2. 対象者：令和6年度在学生（休学者を除く令和7年2月時点での在籍者）

対象者及び回答数

	看護学科				医療介護福祉学科				合計 (内卒業予定者)
	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	1年次生	2年次生	3年次生 (内卒業予定者)	学科計	
対象者数：人	88	85	124 (117)	297	7	9	14 (13)	30	327 (130)
回答者数：人	81	81	113 (111)	275	6	9	14 (13)	29	304 (124)
回答率：%	92	95	91 (95)	93	86	100	100	97	93 (95)

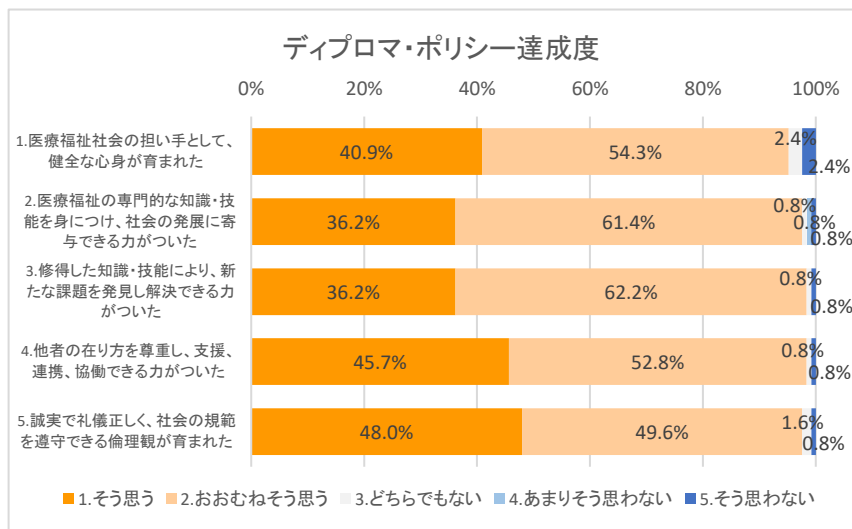
表中の略称について
NS：看護学科
CW：医療介護福祉学科

II. アンケート結果及び分析

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び学修成果の達成度

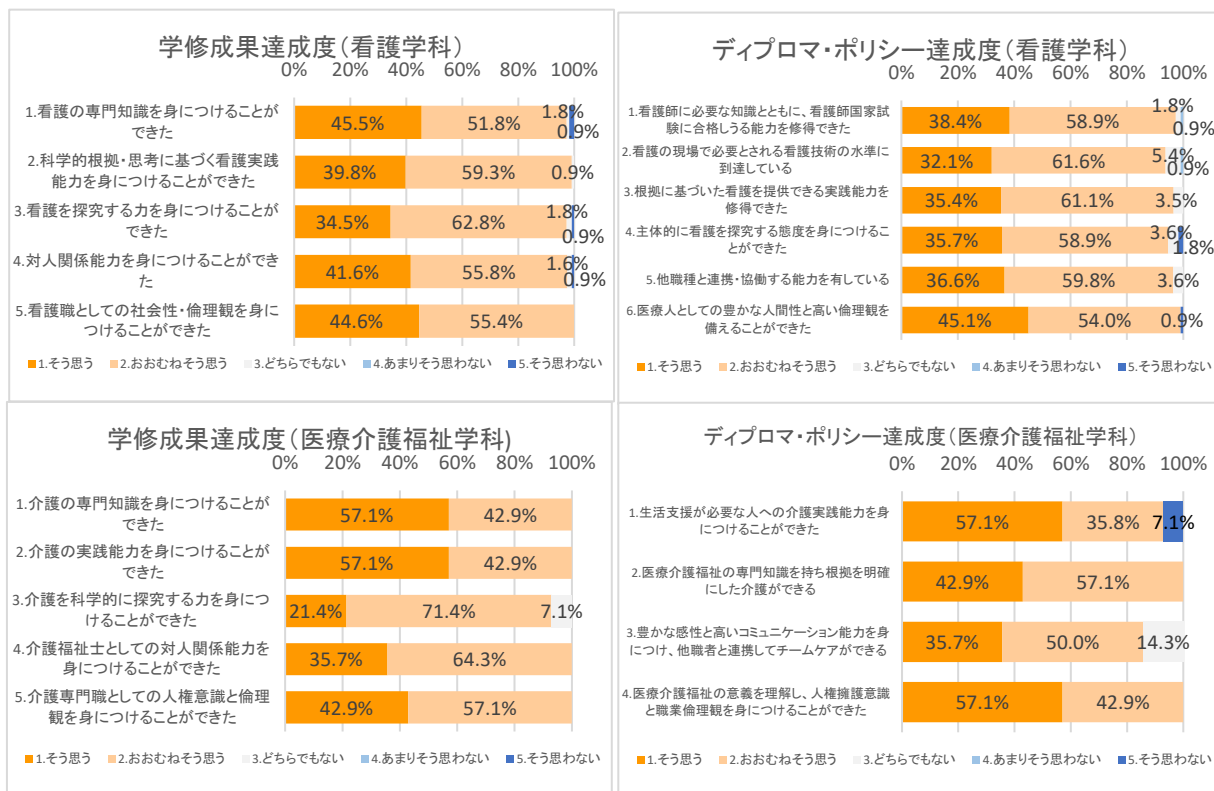
1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（3年次生のみ）

令和6（2024）年度は、看護学科が新カリキュラム完成年度を迎えた。ディプロマ・ポリシーの達成度は、構成する5つの方針に関して「そう思う」「おおむねそう思う」と答えた学生は95%を超えており例年と変わらず高い結果となった。



2) 学科の学修成果及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（3年次生のみ）

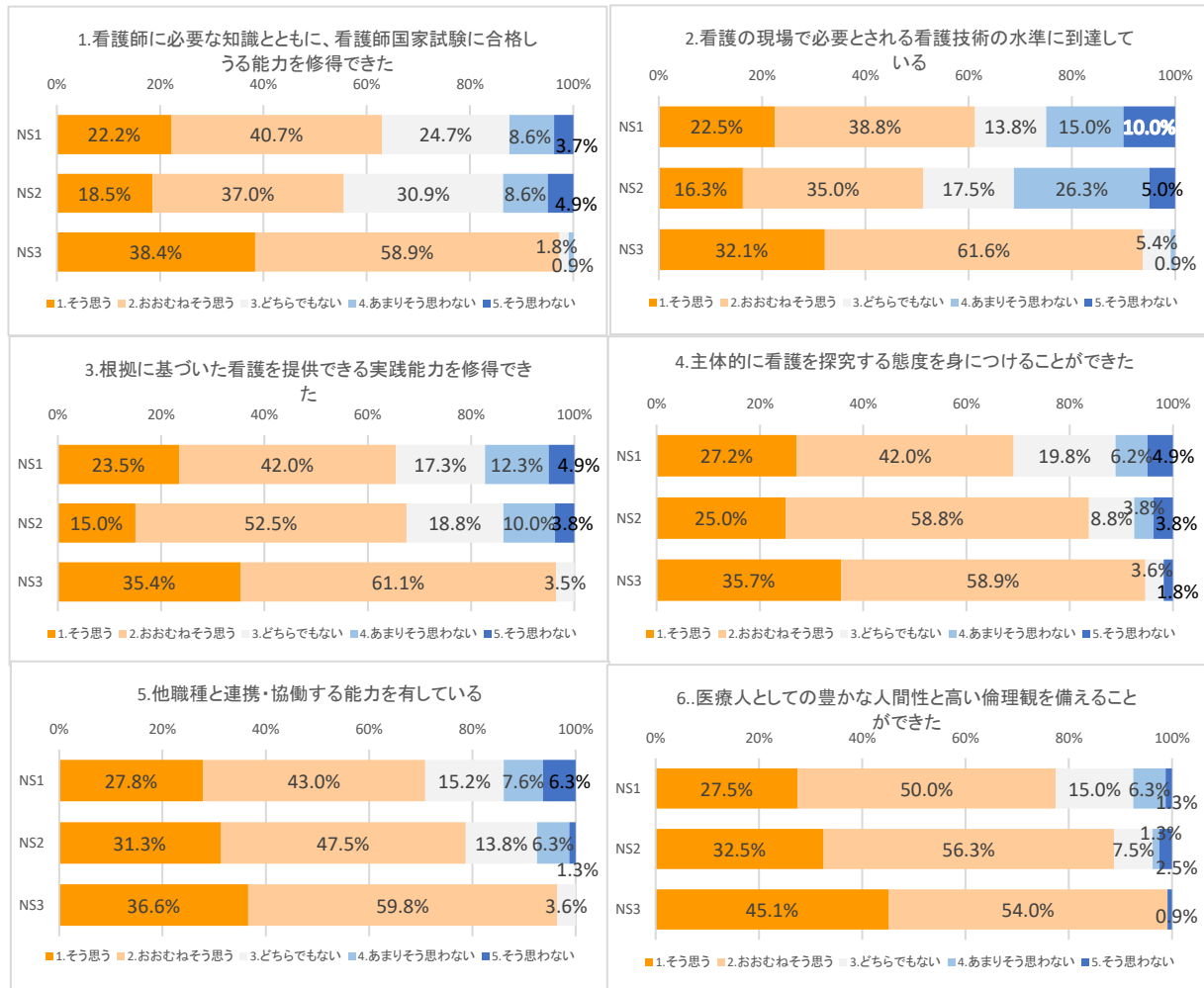
各学科の学修成果及びディプロマ・ポリシー達成度ともに、「そう思う」「おおむねそう思う」と答えた学生が多く、看護学科も医療介護福祉学科も85%を超えていた。



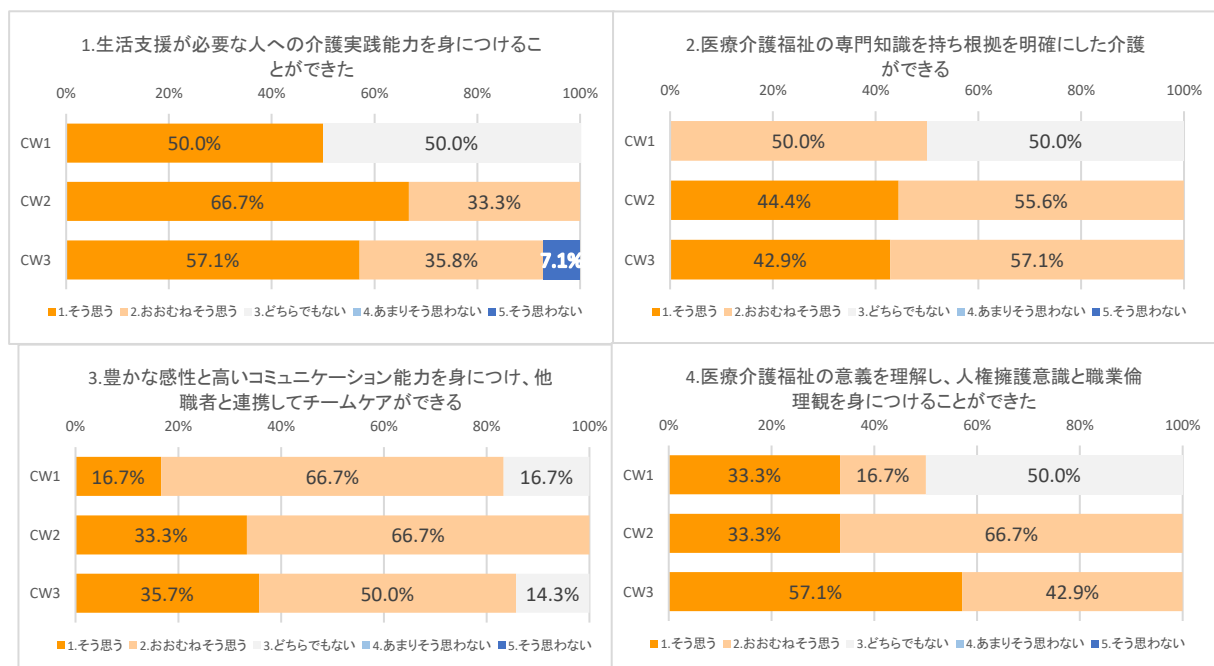
3) 各学年の学科学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

各学科のディプロマ・ポリシー達成度を、学年を追うごとにどのように変化するか調査しているが、1年次、2年次、3年次と学年を上がるごとに、おおむね達成度は上昇する傾向にあった。しかし、看護学科では「1. 看護師に必要な知識とともに、看護師国家試験に合格しうる能力を修得できた」「2. 看護の現場で必要とされる看護技術の水準に到達している」では、2年次生で「1. 1. と思う」「2. 2. おおむねそう思う」と答えた学生の割合が減っており、2年次での講義や演習での難易度を増している現状がうかがえた。医療介護福祉学科3年次生では、「1. 生活支援が必要な人への介護実践能力を身につけることができた」に「1. 1. と思う」と7%の学生が答えており、3年次での病院などでの専門的な実習での経験が影響していると推察された。

(1) 看護学科



(2) 医療介護福祉学科

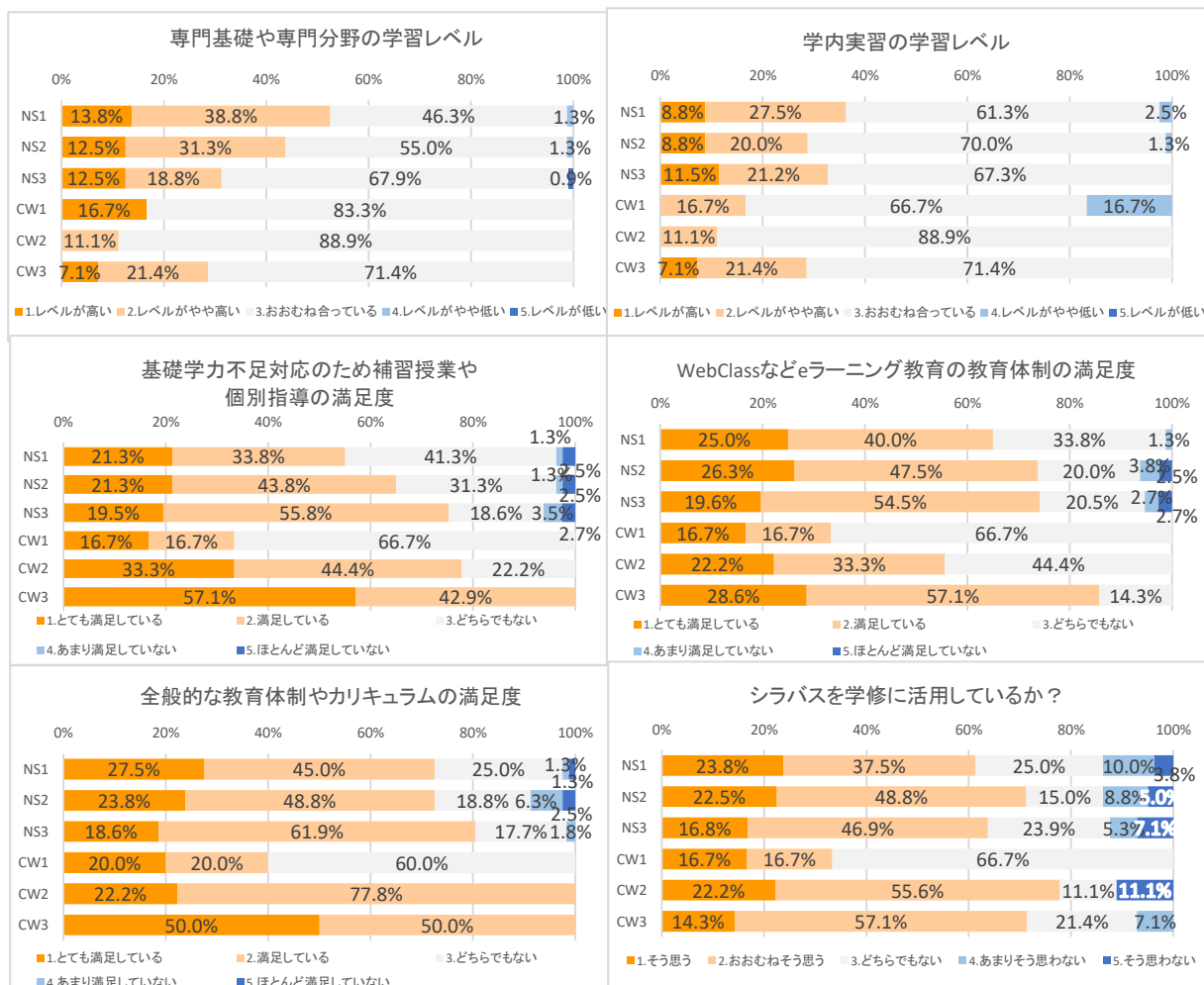


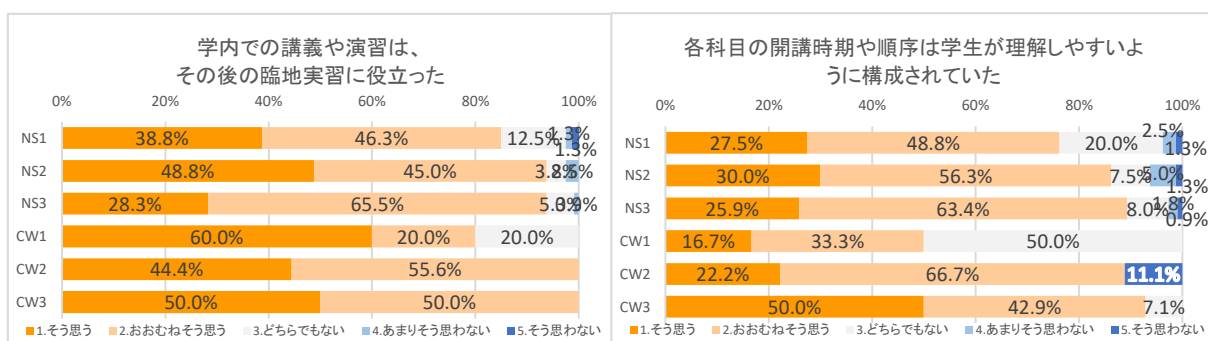
2. 学年別にみた各学科のカリキュラム及び教育体制・支援

1) 学科・学年別の評価

全学年共通項目での教育体制に関しては、「基礎学力不足対応のための補習授業や個別指導の満足度」が、3年次生で高い傾向にあった。「WebClass などのeラーニング教材の満足度」も「満足している」[おおむね満足している]と答えた学生は看護学科が6～7割、医療介護福祉学科が3～8割と、学科により差があった。シラバスに関しては、看護学科は6～7割の学生が活用していると答えたが、医療介護福祉学科1年次生は約3割と低かった。学内での講義や演習は8割以上の学生がその後の臨地実習で役立ったと答えた。

教育課程に関する調査項目の一つとして尋ねた「各科目の開講時期や順序は学生が理解しやすいように構成されているか」の質問では、2年次生 86～88%、3年次生 89%～92%が、理解しやすい構成であると回答していた。1年次生では3年間の初期段階であるため順序性や開講時期の判断が難しいようで、両学科とも開講時期や順序が理解しやすい構成だと思ふと答えた割合が最も低かった。



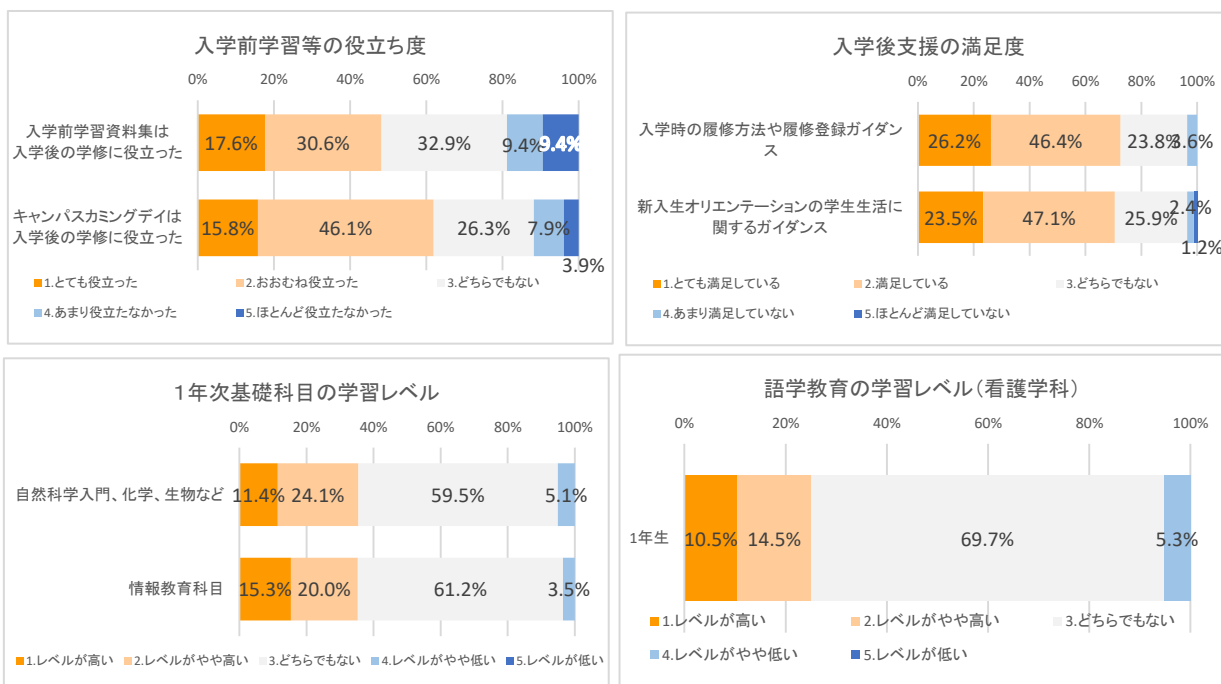


2) 入学前及び入学後の教育支援（1年次生のみ）

本学は入試合格者に対して入学前からの学習支援として、入学前学習・キャンパスカミングデイを実施している。1年次終了時にこれらの役立ち度を振り返ってみると、入学前学習資料集は約4割、キャンパスカミングデイは約6割の学生が役立ったと感じているのにとどまった。入学前学習はWeb上の学習もあるため、入学前学習資料集という名称ではなく、入学前学習全体を通しての役立ち度を調査する必要がある。また入学後の教育支援の満足度も、〔とても満足している〕〔おおむね満足している〕が約7割であった。

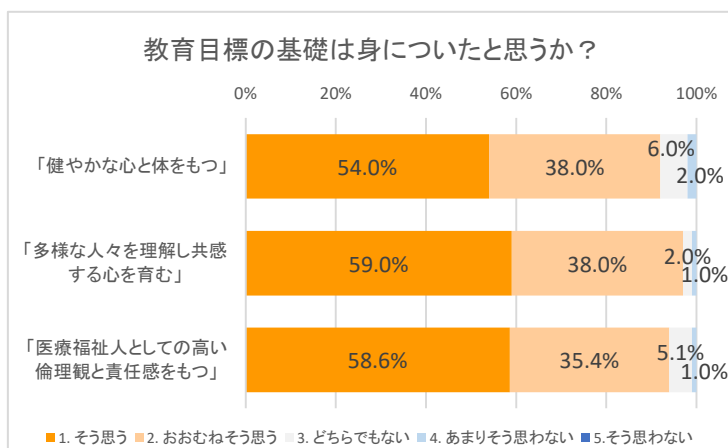
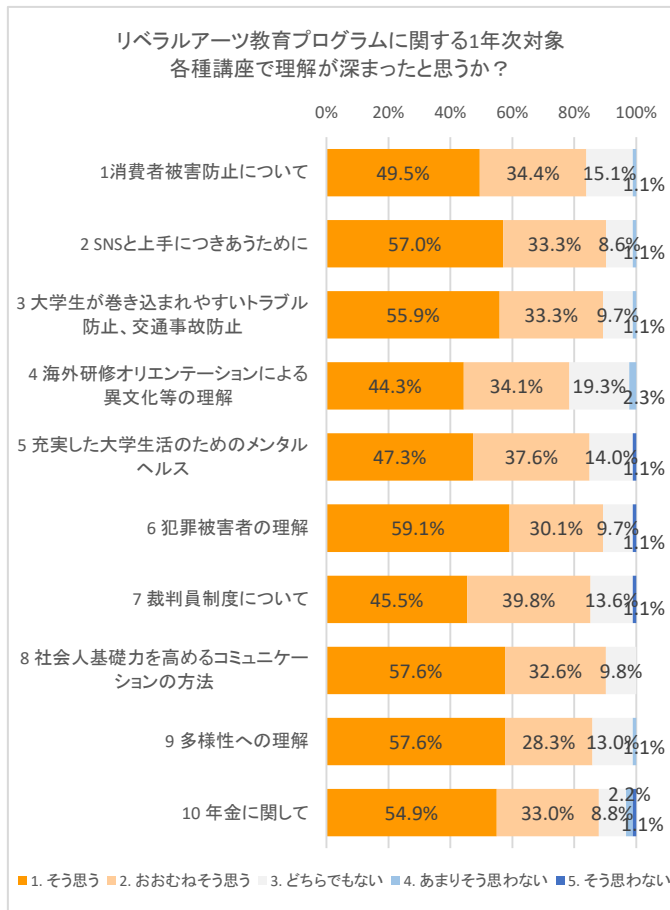
1年次基礎科目のうち、高等学校教育の学習内容が基盤となる「自然科学入門、化学、生物などの科目」「情報教育科目」「語学教育科目」が自分の学習レベルに合っていると答えたのは6～7割の学生であったが、〔レベルが高い〕、〔ややレベルが高い〕と答えた学生も2～3割程度いるため、学生間での差が大きいことが予想された。

1年次に履修する専門基礎や専門分野の科目は、前述した学科・学年別評価の図で明らかに、学科によって差はあるものの、〔レベルが高い〕〔レベルがやや高い〕と答えた学生が看護学科で約5割と多かった。



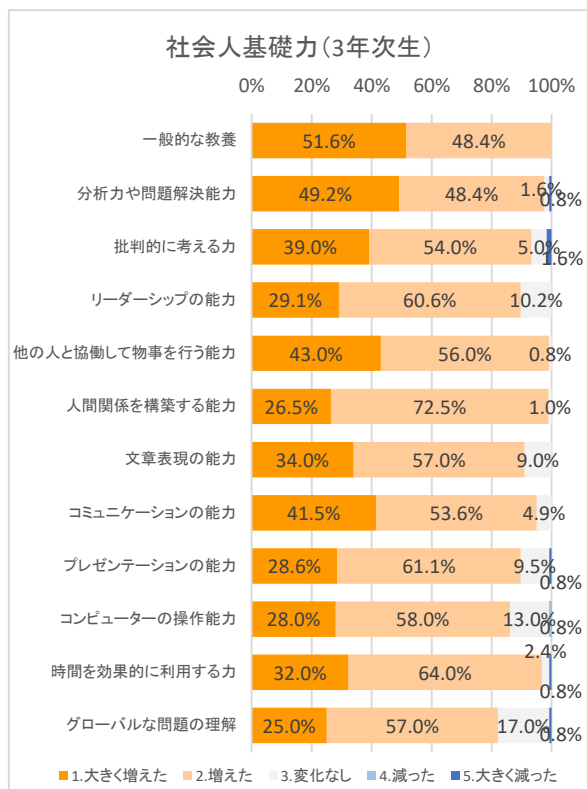
3) リベラルアーツ教育プログラム（1年次生のみ）

調査対象者は、看護学科 88 人及び医療介護福祉学科 7 人、計 95 人中 93 人（欠席 2 人）であり、回収率は 100%である。



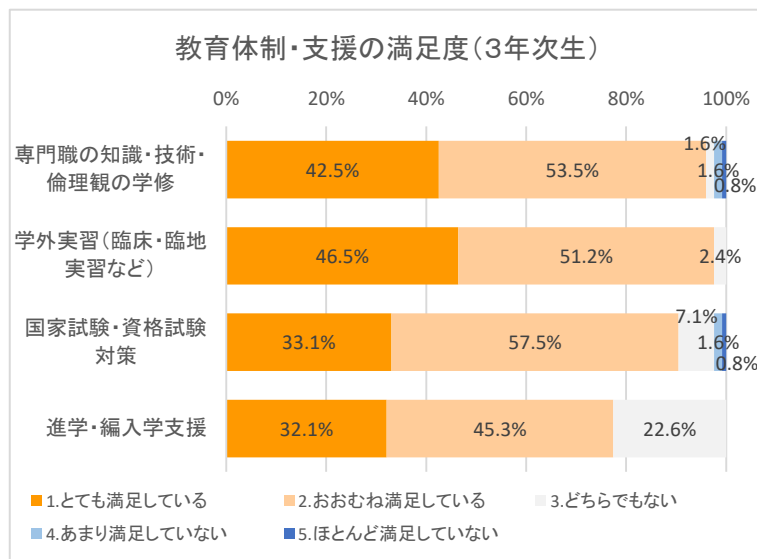
3. 社会人基礎力（3年次生のみ）

令和6年（2024）年度は、社会人基礎力を14項目から12項目に減らして調査した。自己評価では、12項目中「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「他の人と協働して物事を行う能力」「人間関係を構築する能力」「コミュニケーションの能力」「時間を効果的に利用する力」の6項目で95%以上の学生が、「大きく増えた」「増えた」と答えた。昨年度60～70%であった「グローバルな問題の理解」「コンピューターの操作能力」も80%を超えた。



4. 教育体制・支援の満足度（3年次生のみ）

「専門職の知識・技術・倫理観の学修に関する教育体制」「学外実習（臨床・臨地実習など）の教育体制」に対して、「とても満足している」「おおむね満足している」と答えた学生が95%を超えていた。進学・編入学支援の満足度に関しては昨年の37%より高くなっているが77%と他の教育体制より低かった。



5. 学習時間調査

学習場所の調査では、自宅が最も多いが、図書館と教室・ラウンジを合わせると3年次生では2～3割いるため、学校を学習場所として活用している学生がいた。また、学習時間調査では、平均的な1日の学習時間が1～2時間が最も多く学年により差があることも変わらない。学期末定期試験前1週間から1か月前から学習を開始し、1日に4時間以上学習している学生も学科によっては多く存在する。

学習意欲を向上させる要因は、「成績の向上」「仲間との協同」が最も多かった。また、学習意欲を妨げる要因としては「SNSなどのスマートフォン」が最も多く、次に「遊びや趣味」「アルバイト」が多かった。妨げとなる要因に対して生活習慣を見直す支援等が必要である。

